

目的 フレアースカートのように裾まわり寸法が大きい場合には、裏スカートの形状や裏地の特性によってシルエットやノード形状、動作による揺動、また歩行時の着心地などが異なるのではないかと考えた。そこで本研究では裏スカートの形状差および裏地の特性とそれらの関係をとらえ、被服構成上の知見を得たので報告する。

方法 1. 試料は性状を考慮し、表地は混紡ブロード (A_1)、ウールギャバ (A_2)、ウールジョーゼット (A_3)、裏地はキュプラデシン (B_1)、レーヨンタフタ (B_2)、ポリエステルデシン (B_3) の各3種とした。 2. 表スカートの型紙は被検者の体型によるタイトスカート原型から展開した裾まわり寸法320 cmのものとした。裏スカートは裾まわり寸法が表スカートと同寸 (C_1)、15%減 (C_2)、30%減 (C_3) の3種とした。 3. 静的外観効果を観察するために人合に下垂させ、ハム曲線を写真にとり、ノード形状、シルエット指数等と各要因との関係を検討した。 4. 動的な外観効果は被検者にスカートを着用させ、トレッドミル (80 m/min) 上で歩行をさせ、その状態を正面からビデオカメラでとらえ、その動きを観察し、各要因との関係を検討した。

結果 1. ハム曲線の形状因子は、ノード数はA要因に、山の高さの平均はA、B要因に危険率1%で有意差が認められたが、C要因はいずれの形状因子にも有意差は認められなかった。 2. ドレープ係数、曲げ剛さの小さい、質量の大きい表地ほど歩行により被検者の前面に出現するノードの左右への揺動は小さく、また裏地の種類や形状による差はみられなかった。